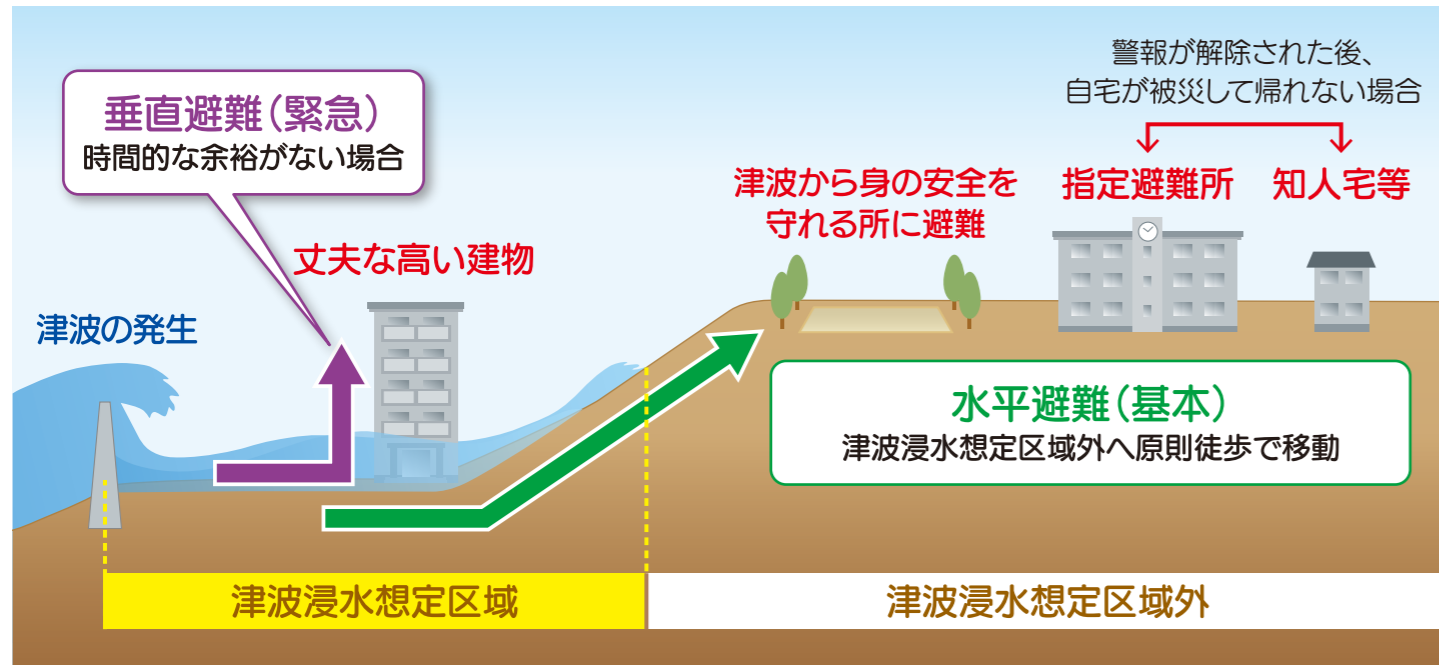


避難のポイントについて

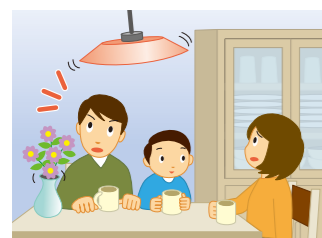


津波から命を守るためのポイント

- 震源が陸地に近いと津波警報・注意報が津波の襲来に間に合わないことがあります。強い揺れや弱くても長い揺れを感じたときは、すぐに避難を開始しましょう。
- 大津波警報が発表された場合は、東日本大震災のような巨大な津波が襲うおそれがあります。直ちにできる限りの避難をしましょう。
- 津波は沿岸の地形等の影響により、局所的に予想より高くなる場合があります。ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。
- 津波は長い時間くり返し襲ってきます。津波警報・注意報が解除されるまでは、避難を続けましょう。

津波からの避難

発災時には、以下のことに気をつけて、落ち着いて行動しましょう。



小さな揺れでも 油断禁物

たとえ小さな地震でも、津波が発生する危険性があります。



正しい情報を 入手する

テレビ・ラジオ・インターネットなどで、正しい情報を入手しましょう。



安全な場所へ 避難する

海岸から「より遠く」、「より高い」場所へ避難しましょう。



冬場の避難行動を 考える

積雪や道路の凍結などで避難行動に遅れが生じる可能性があります。素早い避難行動がとれるよう日頃から備えましょう。

日頃の心得

避難場所の確認や浸水想定区域の把握など、日頃から備えておきましょう。また、家族と避難先(集合場所)や連絡方法を確認しておくことが大切です。

家族会議を開こう

津波が発生したとき、どこに避難し、どのようにして連絡を取り合うのか、家族で事前に話し合しましょう。

一人暮らしのお年寄りなどには気配りを

自分の家族だけでなく、地域全体に目を向けましょう。特に、一人暮らしのお年寄りや子供、病気の方など避難行動要支援者の方たちには、普段から気配りが必要です。

避難場所や避難経路を確認しておく

この津波ハザードマップをもとに、自分の地域の避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

防災訓練に参加する

避難経路の安全性の確認のために、地域の防災訓練に参加しましょう。避難行動要支援者への支援方法についても、話し合うと良いでしょう。

非常持出品を準備しておく

避難が必要になった場合に備えて、食料や貴重品などの非常持出品を準備しましょう。リュックサックなどにまとめて、いつでも持ち出せる場所に保管しておくといいでしょう。



自助・共助・公助

東日本大震災では、地震発生直後の「自力」「家族」「住民同士」による助け合いによって、多くの命が救われており、災害発生直後における地域の防災活動の重要性がより明らかになりました。また、その後の避難生活においても、地域のつながりが被災者の支えとなりました。

災害の発生を防ぐことはできませんが、これらの自助(住民、企業)、共助(自主防災組織等)、公助(行政、防災関係機関等)が最適に機能すれば、被害を減らすことは可能です。

